

前回審議会 主なご意見への対応方針等について

No.	分類	ご意見の概要	今後の対応予定
1	1. 計画全体	「量より質」は非常に重要。コンセプトとして出してもよい。(ビオトープ、2030アジェンダ、SDGs)	本計画の基本目標の前提としていく。
2		庁舎のすばらしいネットワークをアピールして国際的、文化的都市、建物もグリーンアートにしてしまうのが目標というようなメッセージ性のある都市づくりを考え、計画に反映させるべき。	区役所庁舎、学校等、区有施設がモデルとなり、区内施設等の環境配慮を先導していく。
3		・「区民にとってわかりやすい計画」は難しい。 ・合理性・利便性を求める街のため、ハード面から整備していかないと、区民を巻き込んだ手法が通用しにくい。 ・「みんながいい」と思う環境政策が必要という視点は大事だが、大変。	・都市の特徴を活かして、企業との連携等により、環境施策を推進していく。 ・区民調査の結果等を参考に、わかりやすく、すべての人にとっての快適な環境について、様々な角度から検討していく。
4		(国の)第五次環境基本計画が策定されたので、言及が必要。	本計画において、言及する。
5	2. 環境都市像	都市の環境がどうあるべきかという観点から環境像を描いていくと良い。国際都市、文化都市、アートなどのメッセージ性のある都市づくりを反映すべき。	国際アートカルチャー都市の視点をふまえて都市像を検討していく。
6	3. 分野別基本目標	基本目標1気候変動の中で、環境認証制度の活用促進やグリーンインフラストラクチャーの導入、街路環境をキーワードに入れていくとよい。	・環境について、一定の基準を設けることは重要と考えるが、特定の環境認証制度を区として支援していくべきか、支援する場合にはどの制度とし、どこまでの基準を求めるのか検討していく必要がある。国や都の方針も参考に検討していく。 ・都市計画道路などのうち、街路樹の整備が可能な区間では、地域特性に応じた樹種の選定に耐火性の視点を加えて、延焼遮断効果を高めるみどりを創出していく。
7		今後、AI、IoTなどの進歩により、エネルギー融通の仕組みが発展していくと考えられる。面的な仕組みづくりを後押ししていくことは、重要な視点。係数が高いのが問題のため、再エネを促進していく仕組みづくりが必要。	面的な仕組みづくりを促進していく。
8	(1) 気候変動 施策と事業	・建築・都市計画に関する取組状況のデータが示されていないので、示してほしい。 ・CASBEE やLEEDの認証を受けている建築物の数等は把握できるか。 ・環境配慮型建築の受賞を増やすことは、建築分野で重要。東京都の表彰状況は拾える。	・都市計画に関する取組としては、都市開発諸制度を適用するにあたって、一定レベル以上のカーボンマイナスや緑化および地域冷暖房施設の導入検討等の取組を行っている。個別の事業については、6～7月の庁内取組み状況調査で再度所管に確認をしていく。 ・庁内調査によると、現在、区有施設でCASBEE、LEEDの基準を満たしている(認証を受けている)施設については該当なしであった。民間施設等の認証状況については、認証を行っている団体のHP等で確認がとれる場合がある。 ・賞の状況については、6月実施の庁内調査で確認済(豊島区役所本庁舎等で受賞)
9		CASBEEなどの環境ラベリング制度には様々なものがあるので、区として推進するものをきちんと精査すべき。東京都のキャップ・アンド・トレード制度に関わるトップレベル・準トップレベル事業所の区内状況も見た方がよい。	・環境について、一定の基準を設けることは重要と考えるが、特定の環境認証制度を区として支援していくべきか、支援する場合にはどの制度とし、どこまでの基準を求めるのか検討していく必要がある。国や都の方針も参考に検討していく。 ・キャップ・アンド・トレードについては、環境局ホームページに掲載あり(区内では、準トップレベル2事業者)。
10		CASBEEなどに関して、既存住宅の実績について捉えられることがあるか。	実績については、捉えられていない。

No.	分類	ご意見の概要	今後の対応予定
11		・特定の地区を絞って、先導モデルとしてエコディストリクトのような取組みを展開するとよい。 ・区内で今後進められる道路整備、道路拡幅などに伴う空間の変化がある場所を狙って、エコ街区、エコ地区にして、施策の先端的なことを入れると、それ自体がデモンストレーションになって広がりを見せる。	導入について、今後検討していく。
12		気候変動対策として、技術の導入や仕組みづくりが必要とあるが、地域で面的なエネルギー融通を進めていくべき。	面的な仕組みづくりを促進していく。
13		他自治体の再エネを調達することは、区が主導できる取組みとして有効と考える。	本計画に位置付ける方向で検討していく。
14		省エネ機器は、新築住宅では採用が進むが、既存住宅では進まず、対策を考えなければならない。ヒートショックの死亡件数が交通事故の死亡件数よりも多いという現状もあり、住宅環境の改善が、健康住宅、省エネ住宅にもつながり、高齢者が暮らしやすいまちづくりにもつながるので、今後議論したい。	補助等の充実を検討していく。
15		企業と区で連携して省エネセミナーをやっていくべき。	エコライフフェアなど、すでに実施しているが、引き続き実施していく。
16	(2) 自然共生 施策と事業	区民が考える大切な環境として、公園、庭園などの意見が多い一方、改善が必要な環境としても、公園、庭園という意見が多い。豊島区は大都市なので緑は多くないが、次期計画の検討において、公園整備は継続していかなければならないというのが、区民の意向としてでてくると思った。	公園の整備については、すでに計画的に取り組んでいるが、本計画においても位置付けていく。
17		屋上緑化は水不足の原因となる可能性があり、区民が直接緑を感じるができないため、どちらかというのと壁面緑化を進めた方が良いのではないか。	ヒートアイランド現象の緩和を考えると、屋上緑化、壁面緑化ともに重要であるため、ともに推進していく。
18		・屋上や壁面の緑化度はとっているか。 ・データとしてはかれるのか。	緑視率は、一定の地点において調査することができ、調査している。
19		・ビオトープの質や、作った後の管理・活用状況を把握することが必要。 ・「いのちの森」で学校に植えた樹木などは、学校だけで維持管理することは難しい面もあるので、地域の人と連携した体制が必要。	・区有施設のビオトープ設置状況は、6～7月の庁内取組み状況調査で再度所管に確認していく。 ・ビオトープ、いのちの森の管理は計画策定とともに、適切に実施していく。
20		(雨水のあふれへの駅、住宅地等の対応について)オリンピックで人が来るようになると、重要になってくるので、勘案すべき。	所管課に確認のうえ、対策を検討していく。
21		屋上緑化については、水不足を考慮すると雨水利用も必要。緑被率を増やす制約もあるため屋上を活用しているが、区民が実感を持てるのは、ストリート景観・街路樹など。被覆してしまうと集中降雨で負担がかかるので、土がつながっていることが必要。	街路樹の充実、緑視率の向上については、計画に位置付ける方向で検討する。
22		緑量は区民に精神上的の安定・健康を与えると思うので、緑を増やしていくものに注視していったらよい。	みどりの増加については、計画に位置付けていく。

No.	分類	ご意見の概要	今後の対応予定	
23	(3) 資源循環	施策と事業	食品ロス対策に関して、 ①小売りの食品ロス回収量は増えているか。 ②区のレベルの食品ロスのデータについてはどうか。	①食品小売業における食品廃棄物等の再生利用等実施率は、平成26年度では46%、平成27年度では47%、平成28年度では49%、と増えている。 ②平成28年度の未利用食品の量は、推計で約785トン、そのうち賞味期限内は約53トンである。
24			プラスチックごみは重量が軽い割には大きな割合を占めているので、対策が必要ではないか。	すでに実施しているプラスチック類の資源回収については、引き続き推進していくことを本計画に位置付けていく。他のプラスチック類については、検討していく。
25			基本目標の例示として、まちづくりという文言が使われているが、まちづくりの手法で区民を啓発していくとよいのでは。フードロス対策、フードドライブを行うなど、人づくりを巻き込んで展開していくと良い。	フードロス削減対策、フードドライブはすでに実施しているが、地域協働の観点をふまえた事業実施については、検討していく。
26			フードドライブについて、家の中にある賞味期限が切れていない食品ではなく、スーパーで買って寄付する方が多い。民間では、賞味期限が切れそうになった食品をただであげるといった有料アプリがあり、活用していくことが、事業者にとってもウィンウィンになる。	民間事業の活用やその周知についても検討していく。
27			・3Rの推進について、イベント時に食器を貸し出すだけでもリユースの効果がある。 ・豊島区はプラボトルだけを収集しているが、容器包装プラスチック回収という項目を加えていただきたい。	すでに実施している食器の貸し出しなど、3Rの推進については、本計画に位置付けていく。すでに実施しているプラスチックの容器・トレーの回収に加えての、他のプラスチック類の回収については、検討していく。
28			(5)分野共通	ハード面の対応や企業、行政などの組織の力でやれることと、住民と一緒にやっていく必要がある部分を明確にすることが必要。
29	4.指標	全体	豊島区の都市のスタイルに合わせた指標を使って、柔軟に評価を行っていくと良い。	第2回環境審議会でのご意見を参考に、指標案を作成し、第4回環境審議会に提示予定。
30		気候変動	環境認証は非常に沢山あって、都市、国、世界レベルがある。整理が必要であるが、指標として使えるものも沢山あると思うので、検討していくとよい。	
31			環境認証の活用を考えると、はかる指標、どうはかるかを最初に議論した方がよい。指標の方向性、計測、進捗評価の方向性は出しておいた方がよい。	
32		自然共生	「自然と共生する都市の実現に向けて」指標のとり方が非常にわかりにくい。同じレベルの指標で統一する必要(数値にするか、内面にするか)(意識レベル、環境レベル)	
33			自然共生分野の指標の設定について、豊島区では生き物調査を実施しているので、その中で指標にできるものを検討するとよいのではないかと。国土交通省が策定している都市の生物多様性指標なども参考に指標を検討していただきたい。	
34			自然共生分野の指標について、ビオトープは必ずしも数で判断できるものではない。	
35			緑被率がこの数年変わっていないが、緑被率ではなく緑視率を指標にすることを検討してはどうか。	